2023　　年度　授業計画（シラバス）

学　　科	看護学科		科　目　区　分	専門分野	授業の方法	講義演習
科　目　名	診療の補助技術		必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	30　(1)　時間(単位)
対 象 学 年	2学年		学期及び曜時限		教室名	新館2, 3階、実習室
担 当 教 員	青　美智子	実務経験とその関連資格	救急看護認定看護師			

《科目目標》

診療の補助技術は、対象にとって身体侵襲を伴う行為である。そのため医療事故を未然に防ぐリスクを認識し対象者への説明と正確・安全・安楽を考えた援助の重要性を理解する。

《成績評価の方法と基準》

【評価方法】終講テスト70％・課題レポート30％
【評価基準】優:80点以上、良:70点以上80点未満、可:60点以上70点未満、不可:60点未満】

使用教材（教科書）及び参考図書

ナーシンググラフィカ　基礎看護学③　基礎看護技術　MCメディカ（デジタル版）

《授業外における学習方法》

①講義までにナーシング・グラフィック基礎看護学③の基礎看護学技術をよく読み、わからない言葉や理解困難な内容を明確にしたうえで講義に臨む。

《履修に当たっての留意点》

身体侵襲を伴う援助であることを理解し、安全、安楽な看護実践をめざす。対象に対して、コミュニケーション技術を活用し不安が軽減する関わり方を探求する。

授業の方法			内　　容	使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第1回	講義形式	授業を通じての到達目標	呼吸を楽にする援助方法と留意点が説明できる	教科書P288～301	呼吸器系の解剖生理の復習
		各コマにおける授業予定	効果的な呼吸方法、体位ドレナージ、ハフィング		
第2回	講義形式	授業を通じての到達目標	去痰困難にある患者の口腔・鼻腔吸引を安全に実施する方法、留意点が説明できる	教科書P302～303	教科書を読み予習しておく
		各コマにおける授業予定	口腔・鼻腔吸引、気管吸引		
第3回	講義形式	授業を通じての到達目標	酸素療法の目的と方法と留意点が説明できる。	教科書P303～313	一時的吸引の目的、手順について復習し、吸引についてイメージしておく
		各コマにおける授業予定	酸素療法、酸素ボンベの残量計算		
第4回	演習形式	授業を通じての到達目標	安全に口腔・鼻腔吸引、酸素療法のが実施できる	教科書P302～313	口腔・鼻腔吸引、酸素療法の手順を確認し、手順をイメージしておく
		各コマにおける授業予定	トレーニング用人形を用いて実施		
第5回	講義形式	授業を通じての到達目標	皮膚の構造と機能、創傷の治癒糧が理解できる。	教科書P332～352	褥瘡の実際、褥瘡の処置の手順の動画を見てイメージを作っておく。
		各コマにおける授業予定	皮膚・創傷を管理するための基礎知識。創傷治癒のための環境づくり。褥瘡予防ケア、褥瘡のアセスメントと治癒促進ケア。		

授業の方法			内　　容	使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第6回	講義形式	授業を通じての到達目標	生体検査（X線撮影、CT、MRI、内視鏡検査、超音波検査、核医学検査について理解し、検査時の看護が理解できる	教科書P416～449	薬剤動態について明確にしておく 皮膚の解剖生理について理解しておく
		各コマにおける授業予定	X線撮影、CT検査の概要、検査時の看護（放射線暴露防止含む） MRIの概要と検査時の看護　超音波検査の概要と検査時の看護 内視鏡検査の概要と検査時の看護（上部消化管検査）　核医学検査の概要と検査時の看護		
第7回	演習形式	授業を通じての到達目標	採血を安全かつ正確に実施する技術を習得する	教科書P432～434	教材を読み分からない言葉を調べておく
		各コマにおける授業予定	採血モデル人形を用いて実施		
第8回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	薬剤の剤形と特徴を理解し、正しい与薬、薬剤の管理方法が理解できる	教科書P356～374	教材を読み分からない言葉を調べておく
		各コマにおける授業予定	剤形と吸収経路 与薬に関する看護師の役割 経口与薬、点眼、経皮的与薬、直腸内与薬の援助		
第9回	演習形式	授業を通じての到達目標	注射について、その目的・用途・方法が理解できる	教科書P375～389	注射の実際の動画をみてイメージしておく
		各コマにおける授業予定	吸収速度、使用物品 注射針と注射筒の構造、取り扱いの注意点 注射の実施上の責任、皮内注射、皮下注射、筋肉注射、静脈内注射		
第10回	演習形式	授業を通じての到達目標	点滴静脈注射の安全な管理方法について理解できる 安全かつ適正な輸血管理について理解できる	教科書P375～389	輸液療法の実際、手順・方法の動画を見てイメージを作っておく。
		各コマにおける授業予定	輸液療法の目的、輸液の手順、管理方法、 輸血の目的、種類、輸血の実際		
第11回	演習形式	授業を通じての到達目標	安全に輸液療法を実施することができる。（三方活栓と点滴の滴下速度の計算と調節も含む）	教科書P392～410	教材を読み分からない言葉を調べておく
		各コマにおける授業予定	輸液の実際と管理、輸液ポンプの操作		
第12回	講義形式	授業を通じての到達目標	突然　心肺停止にある対象の救命処置が理解できる。	教科書P452～467	一次救命処置、二次救命処置について動画をみてイメージしておく
		各コマにおける授業予定	意識レベル、気道確保、呼吸管理、AED		
第13回	演習形式	授業を通じての到達目標	突然　心肺停止にある対象の救命処置が実施することができる。	教科書P452～467	一次救命処置、二次救命処置について動画をみてイメージしておく
		各コマにおける授業予定	気道確保、胸骨圧迫、AED、呼吸管理、救急薬品		
第14回	講義形式	授業を通じての到達目標	死にゆく人と家族の心理を理解し、どのような援助が必要か説明できる	教科書P470～487	教材を読み分からない言葉を調べておく
		各コマにおける授業予定	死亡の動向と場所 家族を含めた死の看取り 死後の処置のありかた		
第15回	講義形式	授業を通じての到達目標	まとめ・終講試験		
		各コマにおける授業予定	まとめ・終講試験		